

20. アブラムシ類に対する天敵を保持する植物としての ソルガム品種の評価

1. 背景およびねらい

賀茂地域のナスやピーマン栽培では、アブラムシ類やその媒介ウイルスの被害が問題となっている。これらの防除は不可欠であるが、生産者は特別栽培やエコファーマーに取り組んでおり、減農薬を志向している。当センターでは、障壁として用いられるソルガムを利用した地域の生物多様性を活かした防除法の開発に取り組んでいる。そこで、ソルガムの天敵を保護する植物としての機能評価のため、ソルガムの品種の違いがアブラムシ類やその天敵のショクガタマバエに与える影響を調査した。

2. 技術の内容

- 1) 8月下旬の「高糖分ソルゴー」のヒエノアブラムシ密度は、「ねまへらそう」より高かった（図1）。8月上旬の「ゴールドソルゴー」のショクガタマバエ密度は他の品種と比較して高かった（図2）。
- 2) 各品種のアブラムシ類密度とショクガタマバエ密度の間に、8月上旬・下旬に、アブラムシ類密度が高くなれば、ショクガタマバエ密度が高くなる関係（正の相関）が認められた（図3）。
- 3) 夏期から秋期においてアブラムシ類と天敵のショクガタマバエ密度が高く、倒伏程度が低いソルガム品種は、ソルゴー型の「高糖分ソルゴー」、「ゴールドソルゴー」及び「風立」と考えられ、夏～秋期のアブラムシ類対策等に供試できると考えられた。

3. 利用上の留意点

- 1) ソルガムの草丈は2m以上になるので、ナスやピーマンに対して影にならないように、畦の配置に気をつける。
- 2) ソルガムが障壁の機能を発揮するためには、ナスやピーマンの定植時には、それらの苗と同等の草丈が必要であるため、なるべく早くソルガムを播種する。

(生産環境研究部)

4. 具体的データ

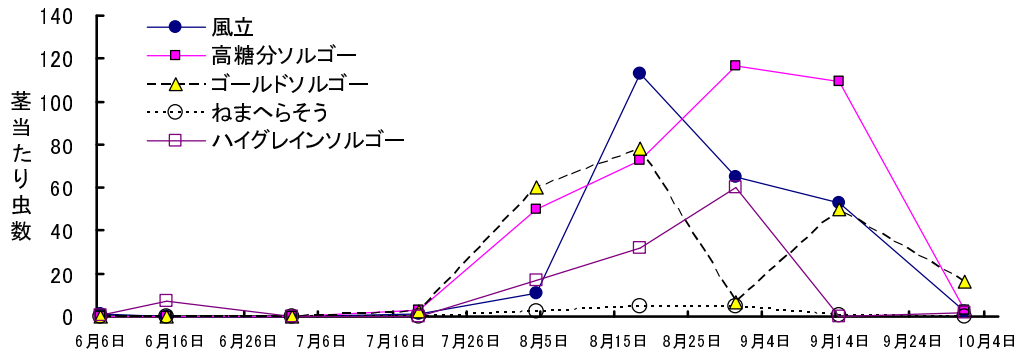


図1 ソルガムにおけるアブラムシ類密度の推移

広島総研農業技術センター内ほ場（東広島市八本松町原）において、ソルガム（16品種）を2009年4月下旬に播種し、ソルガム1茎に寄生する天敵や害虫個体数を約2週間間隔で見取り調査した。

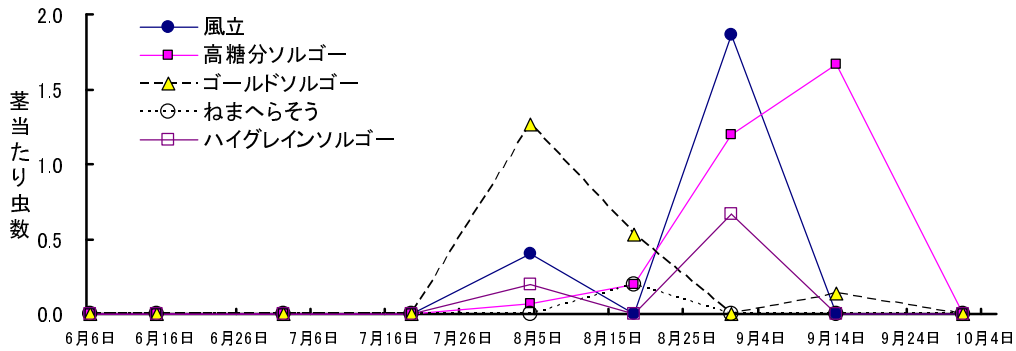


図2 ソルガムにおけるショクガタマバエ類密度の推移

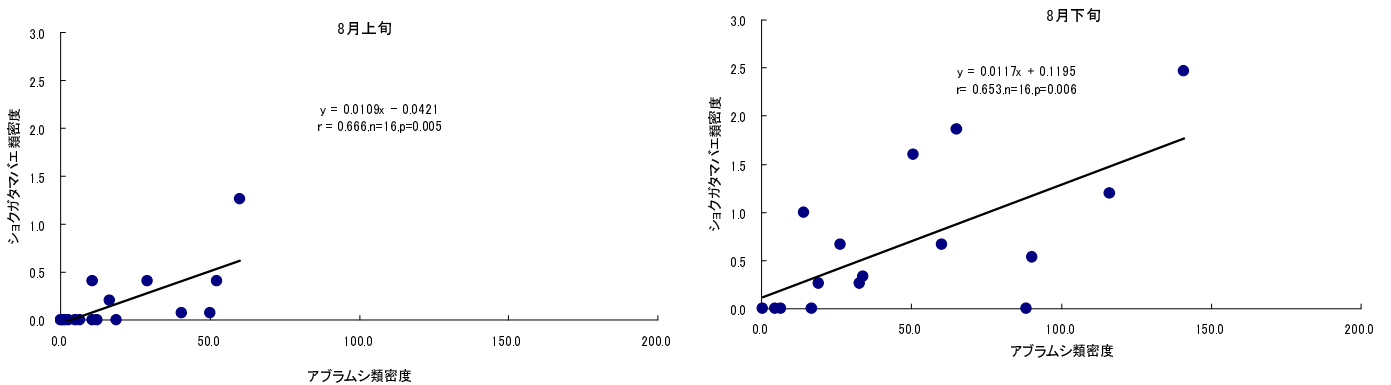


図3 ソルガムにおけるアブラムシ類密度とショクガタマバエ密度の関係